（公財）中央果実協会
No.213

# 米国ワシントン州　リンゴの作柄は中程度

The Packer 2024年9月17日

## 不作と豊作の後、ワシントン州産のリンゴの作柄は中程度

今シーズンのワシントン州のリンゴの作柄について、ワシントン州ヤキマ市に本拠を置くワシントンフルーツグロワーズ社のダン・デイビス事業開発担当副社長は、平年並みに戻ったとして、「もはや何が普通であるのか誰もわからないのではないかと思うが、今年は中間の平均的な作柄のようだ － 過去2年間に目にしたような豊作でも、不作でもない」と述べた。

ワシントン州ウェナチー市に本拠を置くCMI果樹園のロッシェル・ボーム販売担当副社長は、2022年の不作と2023年の大豊作の後、今年の作柄は生産者や梱包業者、販売業者にとってより扱いやすいものになるとして、「リンゴ業界は過去数年間かなりの変動を経験しており、生産量は一方の極端からもう一方の極端に振れた。2年前には供給不足が市場を襲い、在庫の逼迫と引き合いの強さにつながった。昨年はその逆の大豊作で、豊富な果実が市場に溢れかえった。今年は、バランスの取れた中程度の作柄で最適だ。安定的で取り扱いやすい収穫量は完璧な需給バランスに繋がり、高品質なリンゴの安定的な入手を確保することができる」と語った。

ワシントン州セラ市に本拠を置くレイニアフルーツ社のタイラー・ジョンソン営業部長は、「熱波から寒波へ振れる極端な天候が数シーズン続いた後、通常と言える状態に戻ったことに安堵している。全体的な予想収穫量は2023-24年度より少ないが、昨年のワシントン州の収穫量は記録破りだったので、これは驚くことではない」と述べた。

ウェナチー市に本拠を置くステミルトグロワーズ社のブリアンナ・シェールズ販売部長は、今年の収穫量はやや減少すると言い、「2024年のワシントン州の収穫量は1億2,400万箱と予測されており、昨年より9%少ない」と述べた。

ワシントン州グランドビュー市に本拠を置くリバーバレーフルーツ社の営業専門家であるカッシ・オロスコ氏は、同州の生産者は穏やかな冬を経験したが、夏の終わりの暑さが果実のサイズに影響を与えたとして、「7月と8月を通しての高温は果実の全般的なサイズに影響を及ぼし、本来のサイズまで肥大することができなかった。すべての果実を大きくすることは難しかったので、大玉の価格は高く保たれると期待したい。大半の品種では、入数100から125のサイズが最も多いと予想される。果実の品質は素晴らしいようだ」と語った。

一方ボーム氏は、果実のサイズが小さいほど、小売業者は消費者の関心に応えることができると言い、「一部の品種では果実のサイズが小さい方が、袋詰めでリンゴを販売するのに適しており、利便性と分量の調整を重視する現在の消費者トレンドと完全に一致している」と述べた。

収穫が進行する中、シェールズ氏も結果は良好なようだと言い、「着色は良好であり、現在、周年供給を確保するために、果実の長期保存に重点を置いていくつかの品種を選んでいる」と述べた。

### 品種の見通し

シェールズ氏は、州全体の収穫量が9%減少した理由の一部は、今年のワシントン州のハニークリスプ品種の収穫量が推定26%減少したことであると考えている。これは隔年結果の可能性がある。同氏は、ハニークリスプは2023年に前年比30%数量が増加したとして、「今年は、ハニークリスプが大幅に減少しているため、ハニークリスプの購入者の一部をコズミッククリスプなどの新興品種に移すことが重要になる」と述べた。

ワシントン州ブリュースター町に本拠を置くハニーベアブランドのドン・ローパー営業販売担当副社長は、特定の品種では2023年産の多少の持ち越しがあるとして、「我々は良い荷動きを期待している。当初の価格は昨年と比較して堅調な兆候が見え始めており、これは良いことである。弊社では、小売業者と積極的に協力しており、特にリンゴが小売の中心となる秋の間にリンゴの販売を促進するため、消費者に焦点を当てたプログラムを実施している」と語った。

ワシントンフルーツグロワーズ社のデイビス氏は、ハニークリスプやグラニースミスが貯蔵ものと一部重複すると述べた。同氏は、生産者の出荷が1週間遅れていることが、同氏のチームが昨年からの持ち越しをより適切にさばくのに役立っていると言い、「昨年産の最後のCA貯蔵ものと今年最初に入荷したハニークリスプを並行して扱っていることが多く、現在、後者の多くが貯蔵庫に運ばれている」と話す。

デイビス氏は、今年のハニークリスプの収穫量が少なく、シーズンのスタートが遅いことが販売業者にとって有利に働いているとして、「ハニークリスプの収穫量が大幅に減少すると予想しているため、昨年の収穫物の残りを扱い、新しい収穫物にそれほど追い立てられていないのが、ありがたいことに現状だ」と述べた。

ヤキマ市に本拠を置くセイジフルーツ社のケイシー・コムスタディウス販売担当副社長は、今年はガラとコズミッククリスプの数量が大幅に増加すると予想しているとして、「ハニークリスプは業界全体としては減少すると予想しているが、弊社では2023年と同程度の量になるだろう」と語った。

ローパー氏は、コズミッククリスプの数量が昨年の800万箱から今年は1,100万箱に約40％大幅に増加すると予想していると言い、「すべてのコズミッククリスプを適切にさばくため、弊社のワシントン州の販売担当者達の努力が必要になる」と述べた。

シェールズ氏も、レッドデリシャスやゴールデンデリシャスが減り、クラブ品種のリンゴが増えたと指摘しつつ、業界はリンゴの消費を促進するために努力する必要があると同意し、「これは競争の激しい分野であり、リンゴの消費量は減少傾向にあるため、消費者が定期的な購買習慣にリンゴを取り入れるよう、我々はより良い仕事をする必要がある」と述べた。

**課題**

シェールズ氏は、同州の生産者にとって輸送コストが大きな課題であるとして、「地域で流通する作物は主要な出荷先に近いため、多くの場合、我々よりも物流上の有利性がある」と述べた。

ローパー氏はまた、昨年の豊作と出荷量の多さが生産者の収益に影響を与えたと言い、「ワシントン州の全体的な価格水準が大幅に下がり、これは農場出荷と弊社の出荷/貯蔵の両方の段階で収益性に直接影響を与えた。価格が下がった一方、必ずしも販売額の低下を埋め合わせるほど数量が増えたわけではなかった」と語った。

コムスタディウス氏は、労働力はコストと確保の両面で、同州の生産者にとって引き続き大きな課題であるとして、「ビジネスを行うための他の多くのコストと同様に、人件費は過去数年間で大幅に増加した」と述べた。

デイビス氏も同意見で、州の時間外労働規制の影響が、生産者にとって既に困難な状況をさらに悪化させたと指摘し、「ワシントン州のリンゴ生産者にとって最も困難なことの1つは、作物の収益性が高いわけではなく、賃金が上がり続け、時間外労働法が変更された中で、事業を経済的に成り立たせることだ」と述べた。

コムスタディウス氏によると、生産者は自動化とテクノロジーへの投資を通じて効率を最大化する方法を模索することで、ある程度の安心感を求めている。

デイビス氏は、同州の乾燥した気候のおかげで、生産者達は投入される資材を大部分コントロールできる一方で、それらの投入物のコストの上昇がビジネスの動向を変えたとして、「我々は、一連の健全な投入資材を利用できるという幸運に恵まれているが、そのコストはすべて劇的に増加している。重要な関心事は、コストが上昇し、農場の売り上げが増えない環境で、どのようにして営農を続けるかということだ」と述べた。

（以下省略）

執筆者：クリスティーナ・ヘリック

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）